



(第41号)

# 航跡

早稲田ヨットクラブ

2003年6月発行

発行者：理事長 金刺高雄

編集：事務局長 平戸雅幸

## 新しい早稲田ヨットの構築を

早稲田ヨットクラブ会長 土肥丈志 (S36年)

去る3月のOB総会において新理事長に金刺高雄君(42年卒)副理事長に武藤忠君(46年卒)を中心とする新理事諸氏が選出され、これから二年間早稲田ヨットクラブの運営をされることになりました。新理事会には建設的な意見の交換と討議を真摯に交し実り多い結果を期待しております。

既にOB諸兄弟にはスポーツ科学部の創設、体育局のスポーツセンターへの改組、更にはオープン教育センターへの保健体育実技の移管等など、早稲田大学の变革については充分ご承知の事と存じますが、このような变革の時にあたり我々OB会の果たすべき役割は益々その重要性を高めております。

白井新総長の入学式におけるスピーチの中にも、運動部各部に対する期待は極めて高いものがあり、常に一流の結果を残すべく期待されております。このような環境下我々OBは何を為すべきか、今ほど強く求められている時代は無いと存じます。

今更申上げる事ありませんが、当ヨットクラブの使命の**第一**は学生に存分に活躍して貰う為に、まずは可能な限りの財政的援助を行う事にあります。**第二**は学生達に学生ヨット選手として技能、人格共に一流たる素養を身に付けさせるべく、指導教育する監督、コーチなどを選出しその指導に当たらせる点であります。そしてそれらの課題

をより良く実践する為に400数十名にのぼるOBの一致団結こそ欠かせぬものであり、OBレースなどを通じて親睦を図るのが**第三の使命**であります。然しこれらの課題においてはOB会費の集金率の低さや、部財政の最も大きな部分を占める保健体育実技の将来における不安などなかなか一朝では解決出来ない点も多く、これからも関係OB各位のご協力をお願いしなければならないと存じます。そして監督コーチについては、今年度より他校に比べ極めて対応が遅れていた女子選手の採用も、今回のOB総会にて積極的に進めるべきであるとの決議もなされ、関係者はこれらの新課題に、失敗を怖れず旧習にとらわれる事なく、真剣かつ果敢に取り組んで呉れる事でありましょう。そして以上の目的を達成する為に早稲田OBの一致団結を図るべく、親睦会も各大学ヨット部OB会との対抗戦など多くの機会を設定しておりますので、これらの催しに関しては古いも若きも一人でも多くのOB各位のご参加を戴き、現役学生と共に都の西北を声高らかに歌おうではありませんか。

最後に成りましたが、ヨット界におけるリーダーとして不動の位置を占める早稲田ヨット、品格のある早稲田ヨットの構築を目指して新理事諸氏と共に全力を尽くす積もりで御座いますので、昨年に倍した皆様のご支援をお願いしてご挨拶をおわらせて戴きます。



練習を視察する土肥会長 2003年5月